

冬は換気？加湿？インフルエンザ対策



東洋産業だより

Vol. 167
2017年12月号

12月に入り、インフルエンザの流行が本格化しています。今年は11月上旬には、徳島県を除いた全都道府県で発症が確認されています。

インフルエンザ対策として、「換気」や「加湿」が良いと言われますが、それぞれの意味を考えてみましょう。

一説によると、人は1時間当たり約600リットルの空気と50ミリリットルの水分を呼吸で吐き出ししているそうです。皆様の職場やご家庭などで、何名、何時間くらいと考えると、結構な量になりませんか？呼吸で汚れた空気や水分が溜まると、環境の悪化を招きます。だから換気が必要なのです。ちなみに、上手に換気を行うコツをご存知でしょうか？

それは「必ず、」空気の流れを作ることです。換気は読んで字のごとく、空気の入れ換えです。外の新鮮な空気を部屋に入れながら、汚れた空気を外へと追い出すイメージをしましょう。具体的には風下側の窓を開けたり、換気扇を使ったりするならば風上側の窓を開けることが効果的です。

その際に室内の空気がよどまないように室内の空気も扇風機などでかき混ぜてやることや、湿った空気を

を追い出したいわけですから、湿度の低いお昼から夕方にかけて行うこともおすすめです。

換気のコツを3つにまとめます。

- 「空気の流れを作ろう」
- 「空気のよどみをなくそう」
- 「湿度の低い時間帯に行おう」



次に、乾燥やインフルエンザ対策で加湿器などを用いる場合です。インフルエンザウイルスは低湿度環境に強く、湿度50%以上で大きく減少することがわかっていいため、加湿器を設置し、湿度をコントロールすることが予防のために重要な対策となります。その一方、室内の水分量はさらに多くなり、結露などを起こしやすくなります。

外気温が低い冬に温められた部屋では壁や窓に結露が多く発生することにより、カビやダニなどが発生することもあります。これらは冬にも発生しやすいアレルゲンとして、要注意です。さらに加湿器は結露の一因であること、他に、微生物の温床や悪臭の原因にもなりやすいという短所もあります。

今回ご紹介するエリアクリンは微酸性次亜塩素酸水溶液専用の霧化器（加湿器）です。これらを用いると、インフルエンザウイルスの不活化に加え、除菌や消臭も期待できます。オフィスや老健施設、学校、保育園、幼稚園、一般家庭など、加湿器を使用する場面でもう一つの効果を持たせます。

換気と加湿、一見矛盾するような対策ですが、コツをつかんで行うことで、換気しにくい環境でも効率的に清潔な環境づくりを行うことができます。「興味がありましたらお気軽にお問い合わせください。」

エリアクリン



微酸性次亜塩素酸水溶液専用超音波霧化器 CS-P102



Disolva Water

ディソルバ・ウォーターは、強力な除菌・消臭力を発揮しながら人体には安全に使用できる微酸性次亜塩素酸水溶液です。

今月の豆知識：タラバガニはヤドカリのなかま

冬は温かい食べ物がおいしい季節ですね。今回は鍋料理の高級食材「タラバガニ」を取り上げます。カニには様々な種類がありますが、「タラバガニ」はカニの仲間ではなく、実はヤドカリの仲間です。簡単な見分け方として、エビとカニは脚の本数が10本、ヤドカリは8本であるという特徴があります。タラバガニは脚の本数が8本しかありません。また、カニは横方向に移動するというイメージですが、タラバガニは縦方向にも移動することができます。そして、残念ながら、タラバガニのカニミソはヤドカリの仲間だからなのか、水っぽく、油っぽく、生臭いため食用には適しません。よく見るとタラバガニの顔立ちはカニよりヤドカリっぽいですよね。ちなみにカニでないのにタラバガニ、という名前がついているのは、学術的には問題であっても、広く親しまれ、普及している通俗名を重視するという姿勢で採用されたそうです。

他にも伊勢海老とオマールエビもそれぞれ違う仲間ですし、マダイとアマダイも別の仲間です。こういったものを身の回りで探してみるのも面白いかもしれませんね。



東洋産業株式会社

本社
岡山市北区新屋敷町3-1-19-20
TEL 086-2241-8080
FAX 086-2241-8094

拠点
大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)